



七転八倒

大決壊

淫淫

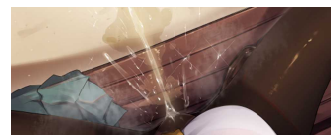
∩∩ 1章目 スカートのなかの野獣

P3



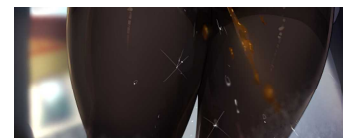
∩∩ 2章目 公園での失禁オナニー

P16



∩∩ 3章目 もりもり膨らむ黒タイツ

P37



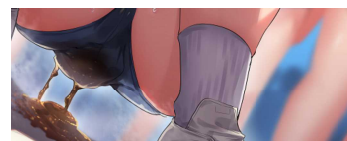
∩∩ 4章目 プールでの水中おもらし

P66



∩∩ 5章目 ブルマでうんちおもらし事件

P82



∩∩ 6章目 放課後の角オナ

P109



∩∩ 既刊のCG

## §§ 1章目 スカートのなかの野獣

「ぱんつがあったかくなって……ううっ、あっ、あひっ！」

シュワワワワ！

シュイイイイイイイイイイイイ！

おまたが痙攣するたびに、勢いよくおしっこが噴き出してくる。  
綺麗な弧を描いてのスプラッシュ。

和式トイレの水面は、琴葉のおしっこによって濃厚な黄色へと染まっていた。

「お尻、蕩ける……」

しゅわわわわわわわわわわ……。

じゅももっ、じゅももももももももっ。

クロッチに広がる生温かな感触は、ショーツを伝ってお尻のほうへと広がっていく。

この感触が、琴葉は大好きだった。

生温かい手でお尻を愛撫され、蕩けそうな錯覚に陥る。

「おもらしなんかしちゃいけないのに……。学校でわざとおもらししてるだなんて……っ」





しゅiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiii……。

ぽた、ぽたた……。

くぐもった鋭い水音が止まらない。

黒タイツに覆われている琴葉の大きいお尻は、自らが漏らしているおしっこによってぐしょ濡れになっていた。

桃のような形をしたお尻から、おしっこが雫となって落ちていく。

「はあ……っ、はあ……っ、はあ……っ。おしっこ、止まらなくなってる……！」

じゅももももももももももももももも！

午後はずっとおしっこを我慢していた。

鋭いアンモニア臭が放たれ、琴葉自身を恥辱の泥沼へと引きずり込もうとしているようでもあった。

「気持ちいいの……、止まらなくなってる……っ。はあはあ、はあ、はあはあはあ……っ」

しゅわわわわわわっ。

しゅわわわわわわわわわわわわっ。

琴葉は、真っ赤に染めたほっぺたを弛緩させて、おしっこを漏らし続けていく。

きっと、ぱんつのなかでは頬と同じくらいにおまたが赤く火照っているはずだ。

「お尻、撫で撫でされてるみたいで……はあ、はああ……おまたも、熱くなってきて……あああ……」

じゅももももももももももももも……。  
もわっ、もわわ……っ。

琴葉の股間から漂ってくるのは、甘酸っぱくも生臭い少女の官能的な香り。

その香りは、黒タイツが食い込んでいる股間が痙攣するたびに強くなっていくようだった。

「し、汁が……」

もわっ、もわわっ。

黒タイツから、トロツとした蜜が滲み出している。  
それは琴葉が性的に興奮しているなによりもの証だった。  
琴葉は、おもらしで感じる身体になっていたのだ。

「おまた、熱くて……緩む……ううっ」

じゅももももももももももももも……。



既刊 CG 紹介





